学校自己評価（年間計画）統合版　　平成30年4月4日

平成29年度　　学校自己評価表（年間計画）

学　校　運　営　計　画	
学校運営方針	・学科の特色を踏まえ、充実した商業教育・情報教育の充実を図り、社会で評価される資格の取得等をとおして、生徒の自己実現を目指す。 ・国際理解教育、英語教育の充実を図り、豊かな国際感覚を持った生徒の育成をとおして、生徒の自己実現を目指す。 ・充実した部活動や学校行事をとおして、高い目標に向かって挑戦する心の育成や、他者と協力して取り組む姿勢や自主性・自発性の育成を図る。
教育目標	1　心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。　　2　互いの人格を尊重し、正義を愛し、よりよい社会の形成者を育成する。 3　国際的な教養と産業経済人として必要な知識技能の習熟と見識の高揚を図る。　　4　高い知性と徳性を有し、国際感覚豊かな人材の育成に努める。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
７月に完成した新校舎への移転に、教職員・生徒が協力して取り組み、円滑な学校生活を送ることができた。 各分掌・各学年・各学科・各教科の取り組みについて、自己評価や生徒・保護者アンケートとも総じて良い結果を得ることができた一方で、厳しい意見をいただく部分もあった。生徒の進路実現や部活動等の自己実現でさらに高い成果をあげるため、各分掌と学年間との連携を強化するなど、より組織的に取り組むことが課題である。	授業内容の充実と学力向上	積極的に授業公開を実施するなど、生徒の実態に合わせた授業の工夫・改善により、生徒の学習意欲を引き出すとともに、授業時間、家庭等における学習時間の確保により、学力の向上を図る。
	全職員の協力による生徒指導体制の整備	全職員の共通理解のもと、担任と副任の連携を強め、組織的な生活指導、教育支援などを推進し、生徒の社会性及び自律性の育成に努める。
	進路実現に向けた指導の充実	３年間の計画的なキャリア教育やきめ細かな個別面談などを実施し、生徒一人一人が適性に応じて進路を選択し、よりよい自己実現ができる能力を養うとともに、進路実現を図るため、分掌と学年が連携して指導に当たる。
	部活動や生徒会活動等の一層の活性化	部活動や生徒会活動のさらなる活性化を図るとともに、これらの活動をとおして、生徒の自主性、人間関係を築く力やリーダーシップを育成する。
	各学科の教育目標に応じた指導の充実	学科の特色を踏まえた専門教科の学習をとおして、簿記会計、ＩＴ、英語等における高度な資格取得や技能の習得を図り、将来、産業経済界や国際社会で活躍できるスペシャリストや地域産業の担い手など、志を持った人材育成の推進に努める。
	安心して学校生活が送れる環境作り	本校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめの未然防止に努めるとともに、早期発見による早期解決に向け、組織的な対応を進める。また、特別な支援を必要とする生徒はもちろん、一人一人の生徒の状況や個性に応じたきめ細かな対応に努め、安心して学校生活を送ることができる環境作りを進める。

重点目標	具体的目標	具体的方策	最終評価			評価者	評価方法	評価基準値（目標数値等）	数値等（実績値）
教務	授業内容の改善・充実を図り生徒の学力向上に努める	○電子黒板等、新校舎における学習環境を積極的に活用した授業を実施する。	B	B	C	職員	アンケート	A：概ね当てはまるが７０％以上　B：概ね当てはまるが５０％以上　C：概ね当てはまるが５０％未満	41.7%
		○生徒の学習意欲等の把握に努める。			A	生徒	アンケート	A：概ね当てはまるが８０％以上　B：概ね当てはまるが７０％以上　C：概ね当てはまるが７０％未満	81.7%
		○家庭学習の習慣化を図る。			B	生徒	アンケート（数値）	A：家庭学習２時間以上　B：家庭学習１時間以上　C：家庭学習１時間未満	1時間以上2時間未満が多い
	保護者・地域へ積極的に情報発信をする	○保護者向け進路講演会･合格者体験発表会への参加率の向上を図る。		B	A	数値	年度末数値	A：講演会・発表会参加５０名以上　B：講演会・発表会参加３０名以上　C：講演会・発表会参加３０名未満	86名
		○Ｗｅｂページを活用し教育活動の積極的な公開を図る。 ○緊急時における生徒・保護者への情報伝達方法の充実を図る。			A	数値	年度末数値	A：WeＢページ更新年１２０回以上　B：WeＢページ更新年１００回以上　C：WeＢページ更新年１００回未満	更新情報38回 大会結果6回 その他20回以上
		○ＰＴＡ会報や学校新聞の発行と内容の充実を図る。			A	数値	年度末数値	A：会報・新聞併せて発行年５回以上　B：会報・新聞併せて発行年３回以上　C：会報・新聞併せて発行年３回未満	6回
					C	保護者	アンケート	A：概ね当てはまるが８０％以上　B:概ね当てはまるが７０％以上　C:概ね当てはまるが７０％未満	57.4%
	授業時間数の確保と自習時間の減少を図る	○単位履修に必要な授業時間の確保する。（32単位×35週＝1120時間）		B	C	数値	年度末数値	A：1155時間以上　B：　C：1155時間未満	1139時間
		○自習時間の減少を図る。			B	数値	年度末数値	A：年間自習率1.0%未満　B：年間自習率1.0%～1.25%　C：年間自習率1.25%以上	1.0%
	新校舎における学習環境等の調整に努める	○情報の共有化と工夫を図り、定期的な整理を行う。		A	A	職員	アンケート	A：概ね当てはまるが８０％以上　B:概ね当てはまるが５０％以上　C:概ね当てはまるが５０％未満	93.3%
生徒指導	高校生として当たり前のことが当たり前にできるよう、基本的な生活習慣の確立と社会性の育成に努める	服装・頭髪について、清潔感と爽やかさを大切にしながら、「生徒心得」の規定を遵守するよう、粘り強く丁寧に指導を継続する。	A	A	A	職員	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	91.9%
					A	生徒	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	97.2%
		○恒常的な朝の校門指導により、遅刻防止の徹底と通学マナーの向上を図る。 ○チャイムと同時に授業開始するなど、職員の側が手本となることで、生徒に時間遵守の意識を高めさせる。		A	A	職員	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	95.8%
					A	生徒	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	99.2%
		貴重品管理の徹底（不必要な物や高額の金品は持ち込ませない）や、ロッカー・部室等の施錠の徹底を図り盗難を無くす。		A		職員	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	
					A	生徒	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	95.9%
		地域活動への参加・協力 ○学校の外周道路を清掃、花の手入れ（生活委員や学年） ○町内清掃への参加（部活動） ○町内への支援（駅前清掃、お祭り協力、除雪協力など）		A	A	数値	実施回数	A．１０回以上　B．７回以上　C．７回以下	10回以上
いじめや学校生活に対する悩みを持つ生徒への対応	校長を中心に教職員が一致協力して、問題の早期発見と早期解決にあたる	教師と生徒、生徒と生徒の間でお互いを思いやり尊重し、生命や人権を大切にする好ましい人間関係づくりに努める。	A	A	A	職員	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	98.3%
					A	生徒	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	84.0%
		いじめなどの問題について、その重大性を全教職員が認識し、情報を共有し共通理解の上で、学校全体で組織的に対応する体制を整える。また、課題を持つ生徒に対して、担任を中心に悩みを相談しやすい雰囲気を醸成するよう努める。		A	A	職員	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	100.0%
					A	生徒	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	75.4%
		学校だより、学級通信、PTAの会合、個別面談などを通じて学校と保護者が常日頃から情報交換を行い、連携して問題解決に取り組む体制を整える。		A	A	職員	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	98.6%
					A	保護者	アンケート	達成感を問う４段階の質問項目で３段階以上の回答が　A：８０%以上　B：６０%以上　C：６０%未満	71.0%
		いじめに関するアンケートを年２回以上実施するとともに、生徒に対する個別面談を年２回以上実施し、いじめや生徒の悩みの早期の発見に努め、迅速な解決を図る。		A	A	数値	アンケート	A：２回以上　B：1回　C:なし	2回
					A	数値	個別面談	A：２回以上　B：1回　C:なし	2回以上
生徒会	生徒会行事の活性化	行事計画立案に際し、①生徒の意欲的・積極的な関わりを生む　②職員の指導体制が有効に働くことに配慮する。生徒会執行部及び各部署との事前打合せを密にし、学校全体で共通認識のもと運用できるように配慮する。	A	A	A	生徒会担当 生徒会総	アンケート	事前打合せが十分なされたかの質問に４段階で２段階以上が、　A　80%以上　B　70%以上　C　70%未満	91.0%
		各行事後に、生徒と職員双方にアンケートを実施する。これにより行事の改善点を明確にして、より良い行事のあり方を検討する雰囲気作りに努める。			A	生徒	アンケート	「行事に主体的に参加できたか？」の質問に、４段階で２段階以上が　A．７０%以上　B．６０%以上　C．60%未満	84.0%
		部活動の活性化を支援する。そのための壮行会と表彰式を計画し実施する。また、応援部の指導を適切に行うことで、生徒の連帯感や意欲の向上を図る。			A	数値	実回数	応援団の指導及び活動日数が１年間に　A．１５回以上　B．１０回以上　C．　５回以上	15回
		ＨＲ年間計画や長期休業中における部活動の練習計画を把握し、全体に提示することで様々な活動が円滑に行われるように図る。また、部活動の加入状況や大会成績など、適宜情報を収集し提供する。			A	職員	アンケート	「適切な情報提供ができたか？」の質問に、４段階で２段階以上が　A．７０%以上　B．５０%以上　C．５０%未満	82.0%
		生徒会誌の適切な編集と発行を通して、様々な情報の発信と学校生活の活性化への一助となるよう努める。			A	生徒	アンケート	「生徒会誌「葦原」を読んだか？」の質問に、４段階で２段階以上が　A．７０%以上　B．５０%以上　C．５０%未満	74.0%
	生徒会費の適切な運用	各クラブの予算が適切に執行されるように、活動費の管理と運用状況を常に把握する。また、各クラブの活動状況を考慮し、適切な予算編成を行う。		A	A	職員	承認	予算の執行状況ならびに年度内の実績をふまえた次年度の予算編成について、適切であるか承認を受けて　A．承認された　B．承認されなかった	
		生徒会費全体の年度予算が適切に執行されたことを監査する。また生徒総会を開き、監査報告を行い承認を得る。			A	生徒	承認	予算の執行内容は適切であり、監査も適切であったと、生徒総会で承認を受ける。　A．適切であった　B．適切で無かった	
	活動のＰＲ（連携）	葦原祭のポスター作成を行い、生徒主体で近隣に配布しＰＲ活動を行う。		A	A	生徒会	数値	近隣にポスターの配布を行う。その配布枚数が　A．２５枚以上　B．２０枚以上　C．２０枚未満	27枚
進路指導	自己実現の達成	生徒が「進路の手引き」を十分活用できるように指導する。	B	A		生徒	アンケート	十分活用できたかの質問に、4段階で3以上の生徒が、A:70%以上、B:60～69%、C:0～59%	76.8%
進学指導	進学意識の啓発	「進学だより」を適宜発行して、進学に関する情報を提供し、意識を高める。		B	B	生徒	アンケート	意識が高まったかの質問に、4段階で3以上の生徒が、A:70%以上、B:60～69%、C:0～59%	69.7%
					B	数値	発行数	A:10回以上、B:7回以上、C:0～6回	7回
		進学講演会や、個別懇談会を利用して、進学意識を高める。		A	A	生徒	アンケート	意識が高まったかの質問に、4段階で3以上の生徒が、A:70%以上、B:60～69%、C:0～59%	85.6%
					A	数値	実施回数	A:3回以上、B:2回、C:1回	8回
		進学意識の啓発や、その実現をめざす学習計画作成のための資料を提供する。		B	B	生徒	アンケート	十分な資料が提供できたかの質問に、4段階で3以上の生徒が、A:70%以上、B:60～69%、C:0～59%	63.2%
					A	担任	アンケート	十分な資料が提供できたかの質問に、4段階で3以上の担任が、A:70%以上、B:60～69%、C:0～59%	96.2%
	学力の向上	大学入試に対応できる学力を付けさせるように指導する。		A	A	数値	進学達成率	大学進学達成率が、A:90%以上、B:85～89%、C:0～84%	98.5%
		長期休業補習、模擬試験、小論文講座等を企画し、積極的な利用を促す。			A	生徒	アンケート	役に立ったかの質問に、4段階で3以上の生徒が、A:70%以上、B:60～69%、C:0～59%	74.7%
	情報・データの整備と有効活用	卒業生の受験結果等を分析し、進学指導に役立てる。		A		職員	アンケート	役に立ったかの質問に、4段階で3以上の職員が、A:70%以上、B:60～69%、C:0～59%	84.6%
就職指導	職業観の育成	職場見学（1年生），ジュニアインターンシップ（2年生），社会人準備セミナー（3年生），校内進路説明会（各学年）等を通じ，生徒の就職に対する意識を高める。	A	A	A	生徒	アンケート	職場見学（１年）が進路について考えるきっかけになったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	92.6%
					A	生徒	アンケート	ジュニアインターンシップ（２年）が進路決定の参考になったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	80.0%
					B	生徒	アンケート	就職ガイダンス（３年）の内容が参考になったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	79.3%
	就職に関する情報の提供	企業やハローワークとの連携を強化し，就職に関する情報の収集に努め，進路の手引き，進路説明会，面接指導，就職だより等を通じ適切に提供する。		A	A	生徒	アンケート	進路の手引きが役に立ったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	87.3%
					A	生徒	アンケート	就職だより，公務員だよりの内容が進路決定の参考になったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	82.9%
					A	生徒	アンケート	進路説明会（１，２年）が進路決定の参考になったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	93.7%
					A	生徒	アンケート	進路説明会（３年）が進路決定の参考になったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	84.5%
					―	生徒	アンケート	就職指導部による面接指導（３年）が進路決定の参考になったとの回答が　A：８０%以上　B：７０%以上　C：７０%未満	―
	就職支援の充実	就職希望者全員の採用内定を目指し，学年・教科と連携し，履歴書作成指導，面接指導等に当たる。特に公務員志望者については，模擬試験や，専門学校が実施するセミナーなども積極的に活用する。		B		就職指導部 ３年担任	アンケート	A：よくあてはまるが１００%　B：概ねよくあてはまるが７０%以上　C：概ねよくあてはまるが７０%未満	86.5%
管理保健	校内外の美化・清掃用具の整備（管理）	○校内清掃の実態を把握し、改善を図る。 １年を通じ清掃目標を設定し、清掃指導の徹底と奉仕意識の向上を図る。 ・「机・椅子のよごれ落とし及び脚先のごみ取り、安全点検」とする。 ・「窓および窓枠の清掃、安全点検」とする。 ・「壁の汚れ落とし、床のよ汚れ落とし、安全点検」とする。以上の流れをふまえ、今後の改善を図る。	A	A	A	職員	アンケート	実施状況が　A：概ね達成が７０%以上　B：概ね達成が６０%以上　C：概ね実施が６０%以下	84.6%
		○屋外清掃の充実 屋外清掃・屋外ごみ拾いの計画立案と実施の推進する。			A	職員	アンケート	実施状況が　A：概ね達成が７０%以上　B：概ね達成が６０%以上　C：概ね実施が６０%以下	95.0%
		○清掃用具の点検と補充 清掃用具の定期的な点検と補充整備に努める。			A	職員	アンケート	点検・補充整備が　A：概ね達成が７０%以上　B：概ね達成が６０%以上　C：概ね実施が６０%以下	72.7%
	エコ活動の啓発（清掃整備）	○ごみの分別指導 ごみステーションにおける分別状況の確認及び指導を行い、分別の徹底を図る。		A	B	職員	アンケート	分別指導が　A：概ね達成が７０%以上　B：概ね達成が６０%以上　C：概ね実施が６０%以下	61.4%
		○ごみの分別に関する意識啓発 各クラス及び各担当区域において、徹底した分別及びゴミの軽減化指導の充実を図る。 そのために必要な資料等を適宜準備し提供する。			A	生徒	アンケート	ごみ分別の意識改革が　A：概ね達成が７０%以上　B：概ね達成が６０%以上　C：概ね実施が６０%以下	78.4%
	健康の保持・増進（保健衛生）	○健康の保持・増進（健康診断結果を利用し、疾病治療と規則正しい生週習慣を身につけさせる。生活改善カードを利用し、個別指導を充実させる） 精密検査受診を勧め、早期発見・早期治療に努める。		B	A	生徒	数値	精密検査実施率が　A：９０%以上　B：８０%以上　C：７０%以下	
		○感染症の予防 ①感染者の早期発見・早期対応により、感染症の感染拡大を防止する。 ②手洗い・うがい・マスク着用などの予防行動が、自主的に行える。 ③免疫力・抵抗力の向上（食事・睡眠・ストレスケアの実施） ④緊急時（新型感染症）の医療用品の整備、備蓄。			C	数値	アンケート	保健便り等による、保護者・職員・生徒への保健指導が　A：７０%できた　B：６０%　C：６０%以下 感染症の予防行動が、自主的にA：概ねとれる８０%以上　B：概ねとれる７０%以上　C：概ねとれる７０%以下 基本的な生活習慣の確立A：７０%以上　B：６０%以上　C：６０%以下 マスク、消毒薬、その他感染症対策用品の整備が　A:７０%できた　B６０%できた　C６０%以下	
	事故の防止と緊急時の救急体制の整備（保健衛生）	○救急講習会年一回開催 ・職員は３年間の間に１回はＡＥＤ講習会を受講してもらうようにする。運動部の美受講者をなくす。 運動部員、職員に熱中症予防教育の実施。アレルギー生徒の把握と、アレルギー研修会実施。		A		数値	数値	ＡＥＤ講習会受講率が　A：７０%以上　B：５０%以上　C：５０%以下 緊急時の対応について把握している職員　A：７０%以上　B：６０%以上　C：６０%以下 アレルギー研修会の受講率が　A：６０%以上　B：５０%以上　C：５０%以下	
図書館	図書館利用の促進	図書館を利用しやすいように整備する。	A	A	A	職員	アンケート	図書館は概ね利用しやすかったと解答する職員　A：８０%以上　B：７０～７９%　C：７０%未満	94.40%
		図書館の資料の充実			A	数値	アンケート	図書館の資料は概ね充実していたと解答する職員　A：８０%以上　B：７０～７９%　C：７０%未満	94.40%
		授業に対応した適切な資料提供			A	数値	アンケート	図書館からの資料提供は概ね適切だったと解答する職員　A：８０%以上　B：７０～７９%　C：７０%未満	97.20%
		図書館を利用した授業の支援の充実			A	数値	年度末数値	授業時数　A：４０時間以上　B：２０～３９時間　C：２０時間未満	
	図書館広報活動の充実	図書館報の発行		A	A	数値	年度末数値	発行回数　A：６回以上　B：３～５回　C：３回未満	
	視聴覚設備・素材の有効利用	視聴覚教室の有効利用の促進		A	A	数値	年度末数値	年間使用時数　A：１００時間以上　B:７５～９９時間　C:７５時間未満	
		視聴覚機材の効果的な利用促進			A	数値	年度末数値	教職員の利用要求に応じた割合　A:９０%以上　B:７５～８９%　C:７５%未満	

１学年	①基本的生活習慣の確立を図る	○ＳＨＲに遅刻をせずに、気持ちの良い一日の始まりを迎えさせる。５分前行動を心掛ける。	A	A	A	数値	年度末数値	Ａ：SHR時の出席率９８％以上　Ｂ:SHR時の出席率98%未満～９６％以上　Ｃ:SHR時の出席率９６％未満	99.0%
					A	生徒	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	99.1%
		○登下校時及び授業の開始終了の挨拶および廊下で挨拶をさせる。			A	生徒	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	97.3%
		○高校生らしい正しい制服の着用（頭髪等も含む）をさせる。バッジ・ネクタイの着用を励行させる。			A	生徒	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	99.4%
		○教室の私物の整理整頓をするとともに、ごみの分別を正しく行わせる。			A	生徒	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	96.9%
	②学習の機会の確保及び学力の向上を図る。	○朝学習を実施し、学習内容の確認をする。		A	C	生徒	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	45.3%
					A	数値	年度末数値	Ａ：朝学習の提出率９５％以上　Ｂ:朝学習の提出率９５％未満～８５％以上　Ｃ:朝学習の提出率８５％未満	
		○授業では私語・居眠りをせず、積極的に授業に参加する。			B	生徒	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	80.5%
		○家庭で、提出課題にきちんと取り組む。			A	生徒	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	90.9%
	③家庭と学校との連携を図り、生徒理解を図る。	○学年だよりを発行し、情報の提供を図る。		B	A	数値	年度末数値	Ａ：１０回以上　Ｂ:８回～５回以上　Ｃ:４回以下	
					A	保護者	アンケート１	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	
		○保護者面談を年2回以上実施する。			B	数値	年度末数値	Ａ：２回以上　Ｂ:１回以上　Ｃ:なし	
		○個別面談を年2回以上実施する。			B	数値	年度末数値	Ａ：２回以上　Ｂ:１回以上　Ｃ:なし	
２学年	①基本的生活習慣の確立と社会性の育成を図る。	○ＳＨＲに遅刻をせずに、気持ちの良い一日の始まりを迎えさせる。	A	A	A	数値	年度末数値	A:出席率99%以上 B:出席率98%以上 C:出席率98%未満	99.1%
		○登下校時及び授業の開始終了の挨拶はもちろん、廊下等で気持ちのよい挨拶をさせる。			A	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが90%以上 B:概ね当てはまるが80%以上 C:概ね当てはまるが80%未満	93.8%
		○新商生らしい、正しい制服の着用（頭髪等も含め身だしなみ）をさせる。			A	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが90%以上 B:概ね当てはまるが80%以上 C:概ね当てはまるが80%未満	99.2%
		○教室内及びロッカーの私物の整理整頓とゴミの分別を正しく行わせる。			A	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが90%以上 B:概ね当てはまるが80%以上 C:概ね当てはまるが80%未満	95.7%
	②学習時間の確保と学力の向上を図る。	○朝学習を実施し、学習習慣を身につけ、学習内容の確認をさせる。		B	C	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが90%以上 B:概ね当てはまるが80%以上 C:概ね当てはまるが80%未満	43.5%
		○授業では私語・居眠りをせず、積極的に授業に参加させる。			A	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが90%以上 B:概ね当てはまるが80%以上 C:概ね当てはまるが80%未満	97.5%
		○家庭での提出課題にきちんと取り組ませる。			B	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが90%以上 B:概ね当てはまるが80%以上 C:概ね当てはまるが80%未満	82.7%
	③早期の進路意識の啓発と対策を図る。	○インターンシップを実施し、職業意識の啓発と職業観を育成する。		A	B	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが90%以上 B:概ね当てはまるが80%以上 C:概ね当てはまるが80%未満	87.8%
					A	数値	年度末数値	A:民間就職希望者の参加率90%以上 B:参加率80%以上 C:参加率80%未満	100.0%
		○ＬＨＲなどで、「進路の手引き」を利用し、進路選択に役立てる。			A	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが80%以上 B:概ね当てはまるが70%以上 C:概ね当てはまるが70%未満	
					A	数値	年度末数値	A:2回以上 B:1回以上 C:なし	2
		○模擬試験や資格検定試験等には積極的にチャレンジさせる。			B	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが80%以上 B:概ね当てはまるが70%以上 C:概ね当てはまるが70%未満	78.3%
	④部活動や学校行事に取り組み、人間関係・自主性やリーダーシップを養成する。	○学校・生徒会行事に積極的に参加させ、人間関係の育成に努める。		B	B	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが80%以上 B:概ね当てはまるが70%以上 C:概ね当てはまるが70%未満	75.7%
		○部活動等を通じて、精神的･肉体的な成長を図る。			B	生徒	アンケート	A:概ね当てはまるが80%以上 B:概ね当てはまるが70%以上 C:概ね当てはまるが70%未満	78.7%
					A	数値	年度末数値	A:部活動加入率80%以上 B:部活動加入率70%以上 C:部活動加入率70%未満	100.0%
	⑤家庭との連絡･連携を密にし、生徒理解を図る。	○個別面談を年2回以上実施する。		A	A	数値	年度末数値	A:2回以上 B:1回以上 C:なし	2
		○保護者面談を年2回以上実施する。			B	数値	年度末数値	A:2回以上 B:1回以上 C:なし	1.0%
		○学年たよりを発行（年8回以上）し、情報の提供を図る。			A	数値	年度末数値	A:8回以上 B:5回以上 C:5回未満	14
３学年	①新商生の自覚を持ち、最高学年として他学年の模範となるような行動をとれる高校生活を送らせる。	○ＳＨＲに遅刻せずに、一日の始まりを気持ちよく迎えさせる。	B	A	B	数値	年度末数値	Ａ：出席率９９％以上　Ｂ:出席率９８％以上　Ｃ:出席率９８％未満	98.6%
					A	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	95.0%
		○登下校時・授業の開始終了の挨拶はもちろん、廊下で挨拶をさせる。			A	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	95.3%
		○高校生らしい正しい制服の着用（頭髪等も含む）をさせる。			A	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	99.2%
		○教室の私物の整理整頓をするとともに、ゴミの分別を正しく行わせる。			A	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	95.0%
	②学習の機会と時間の確保及び学力の向上を図る。	○朝学習を実施し、学習内容の確認をする。また進路に向けた内容も組み入れ、小論文や一般常識の対策をする。		B	C	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	36.8%
					C	数値	年度末数値	Ａ：提出率９０％以上　Ｂ:提出率８０％以上　Ｃ:提出率８０％未満	
		○授業では私語・居眠りをせず集中し、積極的に授業に参加させる。			B	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	82.0%
		○家庭では提出課題にきちんと取り組む。			B	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが９０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが８０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが８０％未満	88.0%
	③進路指導部と連携し、生徒の進路実現を図る。	○ＬＨＲなどで「進路の手引き」を利用し、進路決定に役立てる。		B	C	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが８０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが７０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが７０％未満	69.6%
					A	数値	年度末数値	Ａ：２回以上　Ｂ:１回以上　Ｃ:なし	
		○社会人としての準備のため、礼儀・言葉遣いを正しく行う。			A	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが８０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが７０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが７０％未満	91.9%
		○進路決定率は、年度内に100%の達成を目指す。			B	数値	年度末数値	Ａ：１００％　Ｂ：９５%以上　Ｃ：９５%未満	
		○進路実現に検定が必要となることを再認識させ、検定取得の意欲を持たせる。			B	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが８０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが７０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが７０％未満	75.9%
	④家庭と学校との連絡・連携を図るとともに、生徒理解を図る。	○学年たよりを年８回以上発行し、情報の提供を図る。		A	A	数値	年度末数値	Ａ：８回以上　Ｂ:５回以上　Ｃ:５回以下	
					－	生徒	アンケート	Ａ：概ね当てはまるが８０％以上　Ｂ:概ね当てはまるが７０％以上　Ｃ:概ね当てはまるが７０％未満	－
		○保護者面談を年2回以上実施する。			A	数値	年度末数値	Ａ：２回以上　Ｂ:１回以上　Ｃ:なし	
		○個別面談を年2回以上実施する。			A	数値	年度末数値	Ａ：２回以上　Ｂ:１回以上　Ｃ:なし	
商業関連学科	授業参観をするなどして授業改善を行い、生徒がビジネスに興味・関心を示すよう教材研究を行う。	他の教員の授業参観を行い、授業の工夫・改善に取り組む。	A	B	C	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	40.2%
		生徒の実態に合わせ、小テストや補習を実施する。			A	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	86.7%
		新教育課程を想定した教材研究を行い、指導方法を考察する。			B	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが61%未満	66.7%
					A	生徒	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが61%未満	90.5%
	他教科・部活動との連携を図り、家庭学習の習慣化を図る。	家庭学習時間の短い生徒に対し、学習法の紹介など個別指導を行う。		A	B	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	66.7%
		個人添削課題や週末課題を出し学習習慣の定着を図る。			A	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	86.7%
	キャリア教育を意識した授業を実践する	現在の経済状況や雇用形態の変化をふまえ、職業意識・勤労観・ライフプランなどを考えさせる。		A	A	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	86.7%
					A	生徒	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが61%未満	84.6%
		社会人基礎力を意識し、ビジネスの場面を想定した指導を行う。			A	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	93.3%
		グループ調査、討論やディベートを行い生徒自らが考察し、思考力、判断力を養うとともに、プレゼンテーション実習などにより情報提案能力を養う。			C	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	46.7%
	コンテストや競技大会に積極的に参加・応募する。また将来、産業経済界や国際社会で活躍できるスペシャリストや地域の担い手を育成する。	全商主催の実務競技大会、コンテストをはじめ様々な大会・コンテストに挑戦する。		A	B	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	60.0%
		デュアルシステム、インターンシップ、販売実習などに積極的に参加させ、地域との交流を深める。			B	教員	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが60%未満	66.7%
		基礎・基本の資格取得を通し、高度資格取得に挑戦する意欲の高い生徒の育成を行い、学科目標を達成できるよう取り組む。			A	数値	達成数	三種目一級合格者数　Ａ １００名以上、Ｂ ７０名以上、Ｃ ７０名未満	213名
					A	数値	達成数	日商簿記検定２級合格者数　Ａ ５６名以上、Ｂ４２名以上、Ｃ ４２名未満	107名
					A	数値	生達成数	基本情報技術者試験合格者数　Ａ １０名以上、Ｂ７名以上、Ｃ：７名未満	16名
					A	生徒	アンケート	Ａ：概ねよくあてはまるのが70%以上、Ｂ概ねよく当てはまるのが60%以上、Ｃ概ねよくあてはまるのが61%未満	87.2%
国際教養科	①進学希望の達成	○海外語学研修、ALTの活用などを通して異文化に対する興味・関心を高めさせる。	A	A	A	生徒	アンケート	「国際教養科は・・・・・生徒の進路希望にあった学力を養成する努力をしていると思うか」の質問に Ａ:（どちらかと言えば）そう思う７０％以上　Ｂ:（どちらかと言えば）そう思う６０％以上　Ｃ:（どちらかと言えば）そう思う６０％以下	84.9%
		○大学入試センター試験と２次試験に対応できる指導を工夫する。			B	数値	年度末数値	Ａ:国公立大学合格数　１５名以上　Ｂ:１０名以上　Ｃ:１０名未満	13名%
		○生徒個々の進学希望の達成に向けて指導する。			A	数値	年度末数値	Ａ:進学達成率８５％以上　Ｂ:進学達成率８０％以上　Ｃ:進学達成率８０％未満	97.4%
	②英語運用力の養成	２，３年生で、英検２級の取得者数を増やす.		A	A	数値	英検結果	Ａ:４０人以上、Ｂ:３３人以上、Ｃ:３３人未満	56人
	③国際理解教育の充実	○海外語学研修、ALTの活用などを通して異文化に対する興味・関心を高めさせる。		A	A	生徒	アンケート	「国際教養科は海外語学研修や各種講演会、ＡＬＴの活用などを通じて生徒の異文化に対する興味・関心を高める努力をしているか」の問に Ａ:(どちらかと言えば)そう思うが７０％以上　Ｂ:(どちらかと言えば)そう思うが６０％以上　Ｃ:(どちらかと言えば)そう思うが６０％以下	92.8%
					A	保護者	アンケート	「学校は異文化に対する興味・関心を高め、実践的な英語の力を養成する活動を行っていると思われるか」の問に Ａ:(どちらかと言えば)そう思うが７０％以上　Ｂ:(どちらかと言えば)そう思うが６０％以上　Ｃ:(どちらかと言えば)そう思うが６０％以下	71.6%
		○有意義な海外語学研修実施のために、研修内容を充実させる。		A	A	生徒	アンケート	「語学研修は行ってよかったか」の問いに Ａ:概ねよく当てはまるが７０％以上　Ｂ:概ねよく当てはまるが６０％以上　Ｃ:概ねよく当てはまるが６０％以下	96.1%
					A	保護者	アンケート	「子どもを語学研修に行かせて良かったか」の問いに Ａ:(どちらかと言えば)そう思うが７０％以上　Ｂ:(どちらかと言えば)そう思うが６０％以上　Ｃ:(どちらかと言えば)そう思うが６０％以下	91.9%
国語	学力の向上	①漢字や古典文法などの基礎学力の定着を図るために、朝学習の利用や小テストの実施などを通して、反復学習を行う。	A	A	A	職員	年度末数値	実施回数　Ａ：年２０回以上　Ｂ：１５～１９回　Ｃ：１５回未満	
		②大学入試に対応できる学力を身に付けさせるために、定期的に家庭学習の課題を課したり、長期休業中に進学補習を開講したりして、問題演習の機会を多く持つ。			A	職員	年度末数値	実施回数　Ａ：年１０回以上　Ｂ：５～９回　Ｃ：５回未満	
	授業内容の充実	①生徒の授業への興味・関心を深めるため、授業内容と現実社会との接点を意識した授業を心掛ける。そのために、授業内容や進度に関する担当者間の打ち合わせを密に行う。		A	A	職員	年度末数値	実施回数　Ａ：年７回以上　Ｂ：３～６回　Ｃ：３回未満	
		②言語感覚を磨き、社会の諸事象に深く関心を持たせるため、精選した読書を推奨し、感想文やレポートにまとめて発表する機会を持つ。			B	職員	年度末数値	実施回数　Ａ：年３回以上　Ｂ：２回　Ｃ：２回未満	
地歴公民	基礎学力の向上	生徒の興味・関心を深めるために、資料集・写真集・プリントなどの補助教材を活用する。	A	A	A	担当者		Ａ　十分活用し、工夫した。　Ｂ　まあまあ活用した。　Ｃ　あまり活用しなかった。	
					A	生徒	アンケート	資料集、授業プリントなどの補助教材は役に立ったか？の質問に４段階で３以上の生徒が、　Ａ：70%以上　Ｂ：69～50%　Ｃ：50%未満	96.2%
		基礎学力の定着をはかるために、朝学習や小テストの実施、ノート点検、意見や感想をまとめたりする。			B	担当者	数値	Ａ　年間20回以上実施した。　Ｂ　年間に10回以上実施した。　Ｃ　実施しなかった。	
					A	生徒	アンケート	朝学習や問題演習、小テストは役に立ったか？の質問に４段階で３以上の生徒が、　Ａ：70%以上　Ｂ：69～50%　Ｃ：50%未満	96.2%
	入試実践力の向上	平日や長期休業中の進学補習を実施する。		A	A	担当者		Ａ　予定した以上に実施できた。　Ｂ　予定通り実施した。　Ｃ　予定通り実施できなかった。	
					A	生徒	アンケート	Ａ　補習は大変役立った。　Ｂ　まあまあ役に立った。　Ｃ　あまり役に立たなかった。	84.6%
数学	学力の向上	計算力・基本公式の定着を図るため、各学年が企画する朝学習に協力し、年間で１・２年生は２５回以上実施する。	A	A	A	数値	年度末数値	Ａ：２５回以上実施した　Ｂ：２２～２４回実施した　Ｃ：２１回以下であった	３４回
		国際教養科１，２年生について、模擬試験の平均偏差値が前年度の同学年・同回を上回ることを目安に、模試の過去問題にも取り組む。			B	数値	各回の数値	Ａ：前年度を上回った　Ｂ：前年度と同様だった　Ｃ：前年度を下回った	
	授業内容の充実	授業進度・指導内容等について綿密に打ち合わせを行う。教員同士で授業見学を行い、指導力の向上を図る。		A	A	数値	シラバス	Ａ：シラバスに準じて実施できた　Ｂ：ほぼシラバスどおり実施できた　Ｃ：シラバスどおり実施できなかった	
理科	科学的興味の醸成	科学に関する様々なトピックスの紹介や、資料・教材を作成し、生徒たちの科学的興味の醸成を促す。	A	A	A	数値	年度末数値	Ａ：１０回以上、Ｂ：７回～９回、Ｃ：６回以下	
	生物の維持管理	観察・実験で使用したり、生徒が日頃から生物に接することができるように管理している各種の生物を維持し繁殖につとめる。			B	数諭	年度末数値	Ａ：個体数が増加した場合、Ｂ：個体数が維持された場合、Ｃ：個体数が減少した場合	
	各種実験の実施	各単元で学習した知識や様々な自然現象をより深く理解し実感させるために各種の観察・実験を行う。			A	数値	年度末数値	Ａ：１０回以上、Ｂ：４回～９回、Ｃ：３回以下	
保健体育	授業内容の充実 （体育） （保健）	○運動技能を高め、運動の楽しさ喜びを学ばせる。	A	A	A	生徒	アンケート	一年間の総括として　Ａ：７５%以上の向上　Ｂ：　５０%以上の向上　Ｃ：　５０%以下	92.1%
		○スポーツテスト結果を分析し、体力向上に役立てる。			A	数値	調査	調査結果よりＡ，Ｂランク　Ａ：６０%以上　Ｂ：５５%～６０%　Ｃ:５０%以下	
		○公正、協力、責任などの態度を育てる。		A	A	生徒	アンケート	一年間の総括として　Ａ：　概ね達成が７５%以上の向上　Ｂ：　概ね達成が６０%以上の向上　Ｃ：　概ね達成が６０%未満	93.2%
		○安全面の配慮及び健康自己管理能力を養う。			A	生徒	アンケート	一年間の総括として　Ａ：　概ね達成が７５%以上の向上　Ｂ：　概ね達成が６０%以上の向上　Ｃ：　概ね達成が６０%未満	95.9%
		○基本的生活習慣の確立を図る。			A	生徒	アンケート	一年間の総括として　Ａ：　概ね達成が７５%以上の向上　Ｂ：　概ね達成が６０%以上の向上　Ｃ：　概ね達成が６０%未満	93.8%
		○授業や保健ノート、課題を通し学習理解を深める。			A	生徒	アンケート	一年間の総括として　Ａ：　概ね達成が７５%以上の向上　Ｂ：　概ね達成が６０%以上の向上　Ｃ：　概ね達成が６０%未満	94.7%
	部活動の充実	○運動部活動の加入促進と競技力向上を図る。			A	職員	アンケート	実施結果が　Ａ：　概ね達成が７５%以上の向上　Ｂ：　概ね達成が６０%以上の向上　Ｃ：　概ね達成が６０%未満	83.0%
芸術	鑑賞、表現の両面から芸術活動に取り組み、個性豊かな人間を育成する。	将来、鑑賞者として芸術にふれあう喜びを体験できるよう鑑賞力の向上を図りたい。そのため授業内において鑑賞の時間を十分確保したい。	B		C	職員	アンケート	鑑賞の時間を授業に何パーセント取り入れたか？の質問に　Ａ：１５%以上　Ｂ：１５～１０%　Ｃ：１０%未満	
		生徒が表現者としての苦労と喜び、達成感を体験できるよう、細やかに声掛け、アドバイスを行う。			B	生徒	アンケート	制作、演奏をする苦労、喜び、達成感を感じられたか？の質問に、感じられたと回答する生徒　Ａ：90%以上　Ｂ：90～80%　Ｃ：80%未満	
英語	進路希望達成に必要な学力を養成する	わかりやすい授業を実践する。	B	B	A	生徒	アンケート	授業はわかりやすかったか、の質問に対して４段階で３以上の生徒が、A:70%以上、　B:69～60%、　C:59～0%	85.2%
		綿密な年間指導計画を作成し、それに沿った授業を行う。			A	職員	アンケート	計画通りできたか、の質問に4段階で3以上の職員が、A:80%、　B:79～70%,　C:69～0%	
		商業関連学科：基礎学力をつけるため、全ての科目で小テストを計画通り実施する。			A	職員	アンケート	計画通りできたか、の質問に4段階で3以上の職員が、A:80%、　B:79～70%,　C:69～0%	
		国際教養科３年：センター試験に必要な学力をつけさせる。			C	数値	センター結果	全国平均を、A:10点以上上回った、　B:5点以上上回った、　C:4点以下	
		国際教養科２年：進研模試の成績を伸ばす。			C	数値	模試結果	7月から1月の偏差値の伸びが、　A:2点以上、　B:1点以上、　C:1点未満	
		国際教養科１年：進研模試の成績を伸ばす。			C	数値	模試結果	7月から1月の偏差値の伸びが、　A:2点以上、　B:1点以上、　C:1点未満	
	英語の運用能力を養成する	１年生：英検準２級の取得者を増やす。		A	A	数値	英検結果	A:40人以上、　B:30人以上、　C:29～0人	61名
		２，３年生：英検２級の取得者を増やす。			A	数値	英検結果	A:50人以上、　B:40人以上、　C:39～0人	51名
		スピーチコンテストでの参加者数を増やす。			A	数値	コンテスト結果	A:10人以上、　B:7人以上、　C:6～0人	12名
		国際教養科でALTとのティーム・ティーチングを多く実施する。			A	数値	実施回数	A:270回以上、　B:250回以上、　C:250回未満	
家庭科	基礎的・基本的な知識・技術の習得を目指す	生徒が興味関心をもてるような実験・実習・課題の授業内容を目指し、生徒によるアンケートを行う。	A	A	A	生徒	アンケート	「実習・課題の取り組みについて」の質問に４段階で３以上の生徒　Ａ：６０．０%以上　Ｂ：５０．０%以上　Ｃ：５０．０%未満	
		基礎学力の定着を図る。			A	数値	年度末数値	年間実施の定期考査の平均点がＡ：６３点以上　Ｂ：６０～６３点未満　Ｃ：６０点未満	
		各自の課題をどのように解決していくのが望ましいか、習得したことを生かして考える力をつけさせることを目指す。			A	生徒	アンケート	学んだことを将来生かそうと考えている生徒（とても考えている生徒）　Ａ：５５%以上　Ｂ：４５～５５%未満　Ｃ：４５%未満	
	指導内容の充実	授業進度・指導内容等を綿密に打ち合わせ、年間計画に準じた適切な授業展開を行い、指導内容の充実を図る。		A	A	数値	シラバス	Ａ：シラバスに準じて９０%以上実施できた　Ｂ：シラバスに準じて８０%実施できた　Ｃ：シラバスに準じて６０%実施できた	
成果と反省			最終総合評価 B						